

令和3年12月18日

全国大学生協同組合連合会 第65回通常総会  
全国大学生協共済生活協同組合連合会 第12回通常総会  
御挨拶

文部科学省 高等教育局 学生・留学生課長

藤吉 尚之

「全国大学生協同組合連合会第65回通常総会」並びに「全国大学生協共済生活協同組合連合会第12回通常総会」開催に当たり、一言御挨拶申し上げます。

今回も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインにより開催されるとのことですが、開催に御尽力された関係者の皆様に敬意を表するとともに、本会の開催を心よりお慶び申し上げます。

全国大学生協同組合連合会におかれましては、前身である「全国学校協同組合連合会」の1947年の発足以来、食堂運営、店舗運営、共済事業、キャリア形成支援等の幅広い事業を展開し、我が国の学生支援の充実に資する重要な役割を果たしてこられました。また、学生が安心して大学生活を送るためのセミナーの開催や、広報誌・ホームページによる全国各地の大学生協の取組の発信など、会員組織を支援する様々な事業を実施されております。これらの取組は、会長理事をはじめとする関係者の皆様のこれまでの御尽力によるものであり、深く敬意を表する次第です。

また、「協同」、「協力」、「自立」、「参加」の4つの使命とそこから展開する8つのビジョンを掲げ、「学生中心の生協」として、学生委員会を始め、多数の学生・大学院生・留学生等が参加し、学生目線で、学生主体の活動を大切に、事業を実施してこられたことは、大変意義深いことでもあります。

本年度は「つながる元気、ときめきキャンパス。～協同に確信を！今こそ、つながりあい、語り合い、たすけあおう。～」を活動テーマに、各大学生協において様々な取組が行われており、昨年から続くコロナ禍において、例えば、

共済事業による療養支援や相談支援、学生間のつながり作りの場の提供、学食を活用した食事支援や情報提供等、大学生協が大学と学生、あるいは学生同士をつなぐコミュニティの役割を引き続き果たされております。

また、全国の大学生・大学院生向けに本年7月に実施された、コロナ禍の大学生生活アンケートにおいて、コロナ禍で苦しむ学生、特に昨年入学した現2年生の抱える不安と、その中でも前向きに頑張る学生の姿が明らかとなりました。

本コロナ禍において、様々な不安を抱えやすい状況にある学生のメンタルヘルスケアは非常に重要であり、孤独感や学生生活に不安を抱えている新入生や2年生の把握とケアが求められているところです。そのような中、貴連合会の学生委員会が中心となり、10月に大学生の大学生による大学生のための「全国大学生サミット」が開催されたことは非常に頼もしく、今後も個々の学生に寄り添い、その学生生活を活発化させるような活動が展開されることを大いに期待しております。

文部科学省としましても、今般の新型コロナウイルス感染症の拡大により経済的な影響を受けている学生等への緊急対応として、進学・修学を支援するための各種施策を整備してまいりましたが、引き続き、学生の学びを継続するための緊急給付金や貸与型奨学金の返還支援の充実等に取り組んでまいります。

また、令和2年4月から開始された高等教育の修学支援新制度を着実に実施していくとともに、奨学金事業、留学生交流支援、障害のある学生支援、就職支援等、各分野における喫緊の課題に対応した必要な施策を推進してまいります。どうぞ引き続き、皆様方の御理解と御協力をお願いいたします。

最後になりましたが、両連合会の益々の御発展及び関係するすべての皆様方の更なる御活躍と全国の大学生の皆さんの学生生活の充実を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。